

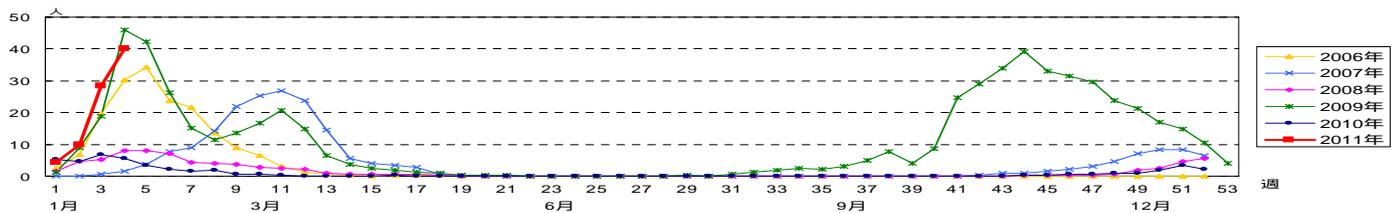
横浜市インフルエンザ流行情報 5 号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

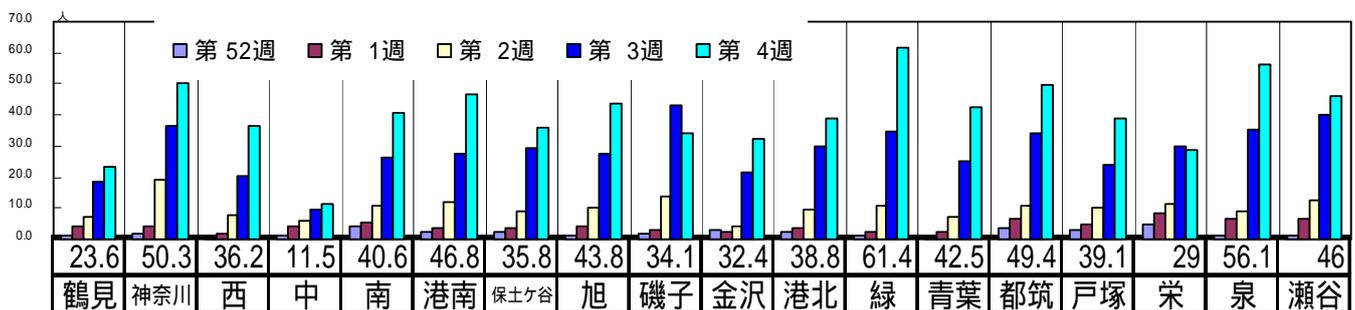
トピックス

- ・ 第4週(1月24日からの週)で、市内の定点当たり 40.19 と、**警報レベル(30 以上)**です。
- ・ 市内の迅速キットでの結果は、A 型 4354 件、B 型 392 件とほとんどが A 型です。
- ・ 年齢層内訳では、半数以上が 10 歳未満です。
- ・ 施設閉鎖は、第1週、第2週ではゼロでしたが、第4週では 58 施設、1248 人と急増しています。施設閉鎖での患者数 99% が小学生以下です。低年齢層の感染に気をつけましょう。
- ・ 病原体検出状況では、第4週では A 新型9件、A 香港型5件、B 型1件でした。インフルエンザ治癒後も、別の型のインフルエンザにかかることもありますので、一度かかった方も、引き続きマスク、手洗いなどの感染防止をこころがけましょう。

1 市内 150 か所(小児科 91 内科 59)の定点医療機関からの報告で、第 50 週(12月13日～19日)に「流行のめやす」である「定点あたり1」を超え、第4週(1月24日～)では定点あたり 40.19 でした。

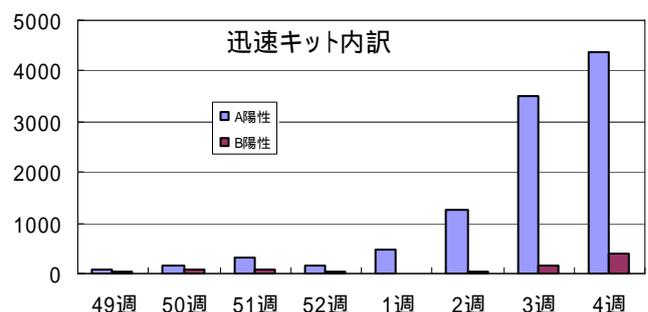


2 行政区別状況: 15 区が警報域でした。流行状況は、定点医療機関の受診した患者数を持って判断しています。そのために、各区の医療機関の偏在、交通機関等アクセス状況、昼間人口の年齢構成等が影響しているもので、各区の住民の罹患状況を直接反映するものではないことにご注意ください。

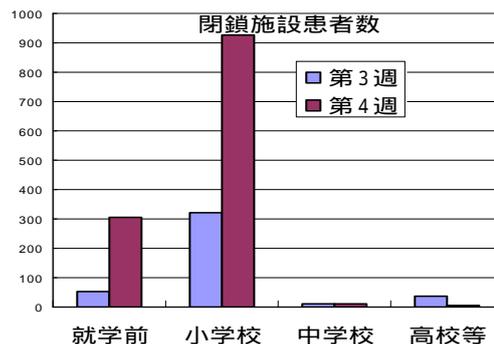
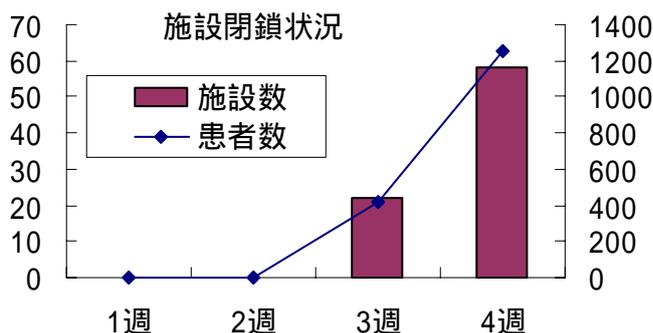


3 迅速キット内訳: 現時点での市内流行状況は、A 型が優勢です。しかし、A 型の流行に続いて、B 型が大きく流行した年もあり、今後の B 型の動向に注目がが必要です。

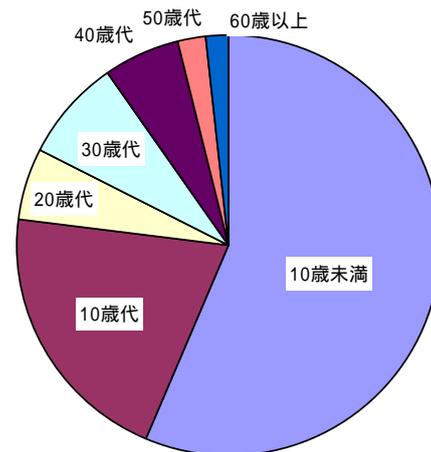
B 型の割合は、第 52 週までは、市内の 3 割を占めていましたが、第 2 週では 2%、第 3 週では 4%、第 4 週では 7%となっています。B 型は 18 区すべてに見られており、特に中区・緑区では、27%、26%と、割合が高い区も見られます。



4 施設閉鎖状況:第1週、第2週の報告はありませんでしたが、第4週では、58施設、患者1248人と急増しています。第4週の患者報告の内訳を見ると、74%が小学生、25%が幼稚園等就学前となっています。

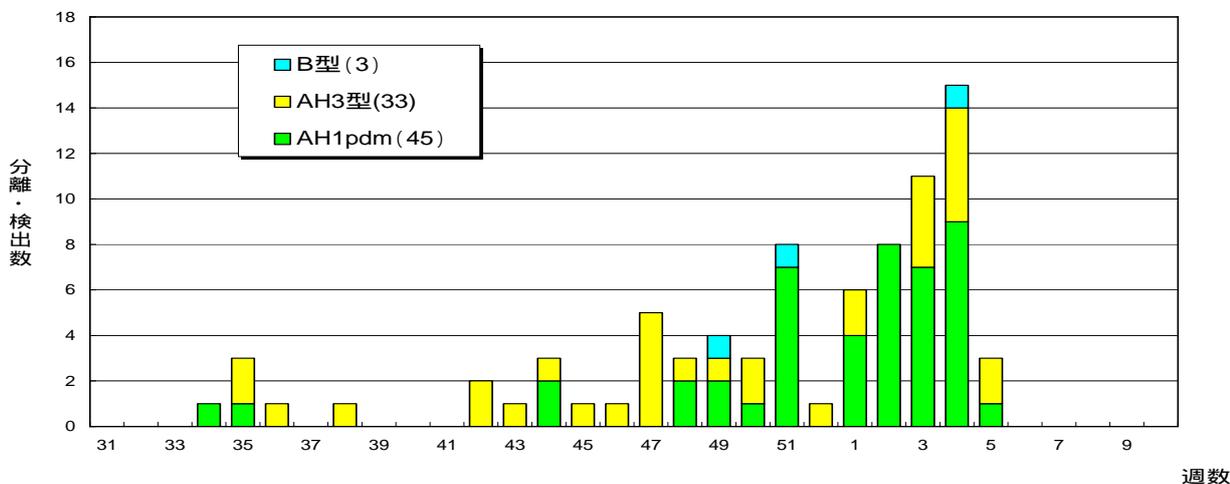


5 年齢層別集計:第1週では、20歳以上の割合は47%でしたが、第4週では57%が10歳未満、77%が20歳未満と、若年者の感染が目立ちます。



6 病原体検出状況:第4週から5週前半では、A新型が10件、A香港型が7件、B型が1件検出されています。11月まではほとんどがA香港型でしたが、12月に入りA新型が優勢となっています。

2010/2011シーズン病原体定点インフルエンザ分離・検出状況 (横浜市)



第4週の増加率は鈍ってきており、例年の流行状況と考えると、ここ1~2週で、ピークを迎えると予想できます。過去のA型とB型の混合流行では、流行期が長引いたこともあります。また、複数の型が市内で循環しているために、治癒後も別の型のインフルエンザに感染する可能性がありますので、一旦罹患しても引き続き注意が必要です。

お問い合わせ先

横浜市健康福祉局健康安全課

045 (671) 2463

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課

045 (754) 9816